

4. 調査結果の要約及び総合評価

本調査では、市内の16地域及び補足調査1地域の17地域を重点調査地域として、現地調査を行った。また、調査地域以外にも任意調査を実施した。その結果、重点調査及び補足地域で125種、任意調査ではそのほかに71種、計196種が確認された。文献調査を含めると、248種である。

宗像市は、沖ノ島・大島・地島・勝島の島嶼と釣川が市の中心部を流れ四塚連山などの比較的低い山々に囲まれた地形になっており、鳥種は水辺の鳥や里山の鳥など比較的多い。また、宅地開発は進んでいるものの丘陵地や谷戸・谷地田が残されており貴重な野鳥が棲息している。市内には多くの溜池が点在し、カモ類の越冬地やカイツブリ等の営巣地ともなっている。

特に、重要な地域は沖ノ島・小屋島と武丸周辺台地・名残の谷地田である。沖の島は、市の鳥であるオオミズナギドリが集団営巣地になっている。また、春・秋の渡りで稀少な鳥類が多く渡る。沖ノ島の属島である小屋島は、1975年に天然記念物に指定されたカンムリウミスズメが繁殖している。絶滅危惧Ⅱ類のヒメクロウミツバメも繁殖している。

宗像市内では、オオタカの営巣が確認された。オオタカの生息環境は樹林が比較的多く残された農耕地や丘陵地の里山である。オオタカは種の保存法の希少種であり、生息地保全義務がある。

沖ノ島、大島、地島では、天然記念物・準絶滅危惧種のカラスバトが生息している。生息密度は高いが、島民の話によると、生息数が減っているとのことである。本種は照葉樹林に生息する。

任意調査で明らかになったが、宗像市には溜池が多く存在する。これらの溜池にはカモ類などの水辺の野鳥が多く生息する。特に、吉田池は絶滅危惧Ⅱ類のトモエガモが毎冬、越冬している。また、吉田ダム・多礼ダムはマガモ・オナガガモ・キンクロハジロ等のカモ類が多く越冬している。さらに、宗像市曲の長把池は、市内で唯一のアシ原が存在し福岡県レッドデータブックの準絶滅危惧種であるオオヨシキリが繁殖している他にサンカノゴイ等の希少種が立ち寄る場所となっており、周辺の田はカモ類やヤマシギ等の採餌場所になっている。